



# 教育相談だより

令和7年12月 第2号

静岡県立静岡視覚特別支援学校

eye 愛センターしずし

電話 054-283-7300

Mail [soudan.shizuoka-sb@edu.pref.shizuoka.jp](mailto:soudan.shizuoka-sb@edu.pref.shizuoka.jp)



朝夕の冷え込みに、冬の訪れを感じる頃となりました。あたたかいものが恋しい季節です。皆さまはお元気でお過ごしでしょうか。

今号では、今年度行った教育相談行事の紹介と、教育相談での話題についてお伝えします。

## サマースクール

7月に、教育相談を利用する小学生・中学生とその保護者8組が集まりました。普段個々に相談している見えにくさのあるお子さん同士が、見え方に配慮された環境で一緒に活動しました。「去年会ったあの子に会えるかな?」「会えた!」と約1年ぶりの再会を喜ぶ声も聞かれました。

残念ながら、当日朝に発生したカムチャツカ半島付近の地震により津波警報が発表され、急遽1時間目の体育のみで終了とさせていただきます。次年度は、ぜひ新校舎で、他教科の活動や保護者座談会を通して交流が図れたらと思います。



ブラインドサッカーボール パス体験

転がすと音が鳴るサッカーボールを使いました。蹴る前には、相手の名前を呼び合って「こっちだよ」「いくよ」と合図をしました。相手を思って受け取りやすく蹴ったり、ボールの音をよく聞いて受け止めたりすることができました。



サウンドテーブルテニス



パラスポーツの一つ、視覚に障害のある選手が音を頼りに競う卓球を体験しました。通常の卓球との違いは、転がすと音が鳴るボールを使い、ネットの下を通るように打ち返すことです。試合ではアイマスクを着用し、音をよく聞いてボールの動きを察知する集中力が必要です。短い時間でしたが、コツをつかんで上手に打ち合うことができました。

## 保護者学習会

10月に、教育相談を利用するお子さんの保護者と静岡視覚特別支援学校に通うお子さんの保護者、計7名が参加し、学習会を行いました。講師に、和太鼓奏者でありパーカッションスト、さらに社会福祉士としてもご活躍されている全盲の片岡亮太さんをお迎えし、お話いただきました。

片岡さんは生まれつき弱視でしたが、10歳の時に突然全盲となりました。大きな絶望を感じた時期もあったそうですが、盲学校で点字を学んだことで世界が広がったと語られます。見えにくいものをよく見ようとして、姿勢にも負担がかかっていた一方、点字は触って夜でも読める、と片岡さんはプラスの発想で考えます。

講演ではご自身の幼少期を振り返りながら、「お子さんの可能性を信じてください」と繰り返し伝えてくださったことが印象的でした。

また、「目が見えないことは決してマイナスではなく、それも含めて完璧なのです。そんなまなざしで子どもを見守れば、きっと親の想像を超えた人生を歩んでいけるはずです」と力強く語られ、参加者一同、大きな勇気と子育てのヒントをいただきました。



※学習会で配布した資料は、片岡さんの許可をいただきお渡しすることができます。

また、講演の様子を動画視聴することもできます。ご興味のある方はご連絡ください。

## NEWS

- ★令和8年4月の「するが視覚総合特別支援学校」開校に向けて、仮移転中の静岡南部特別支援学校から引っ越しをします。
- ★来校しての教育相談を予定されている方は、お早めにご連絡ください。3、4月は電話やメールでの対応になります。
- ★タイミングを逃さず支援対応ができるように、早めに準備を進めていきたいと考えています。


教育相談 電話 054-283-7300

Mail [soudan.shizuoka-sb@edu.pref.shizuoka.jp](mailto:soudan.shizuoka-sb@edu.pref.shizuoka.jp)



## 【「トリセツづくり」のススメ】

教育相談では、自分の見え方を伝える力や支援を依頼する力を育むために、一緒に自己紹介を考えています。進級、進学など、新しい出会いや環境において、見えにくさを理解してもらおうと、安心して生活しやすくなります。自分の「トリセツ(取扱説明書)づくり」を通して、自分の好きなこと、得意なことに目を向けつつ、自分の見え方をどのように表現したいか整理し、伝えるための準備をすることが大切です。



私は目が見えにくいです。  
遠くを見るために単眼鏡  
を使っています。

ドッジボールはちょっと  
苦手です。



私は、見えにくさを感じています。例えば、誰かと  
すれ違ったとき、顔がはっきり見えず、気が付か  
ないことがあります。

- ★視力や病名を伝えるよりも具体的な場面を伝える方が、本人も周囲も分かりやすいです。
- ★年齢に応じて、教育相談で話し合ったときのお子さんの思いを保護者が代弁して学校に伝えています。年頃によっては、配慮してもらうことを皆に知られたくない思いもあります。
- ★視覚特別支援学校が在籍校を訪問して、補助具や見えにくさの体験を行い、本人・保護者の方の説明に協力することもできます。

★「トリセツづくり」の際には、日本弱視者ネットワークのホームページに掲載されている「私見え方紹介カード」の表現例を参考に、自分のことばで整理していきます。このホームページには、就労している弱視の方の座談会等、様々な情報も載っています。

【参考： 日本弱視者ネットワーク 私の見え方紹介カード

[https://jakushisha.net./miekata\\_card.htm](https://jakushisha.net./miekata_card.htm)】

静岡県立静岡視覚特別支援学校

eye 愛センターしずし

電話 054-283-7300

Mail soudan.shizuoka-sb@edu.pref.shizuoka.jp